山口県立下関北高等学校
令和２年度第１回学校運営協議会　会議録

１　日　時　　令和２年７月９日（木）　午後５時から午後７時まで

２　場　所　　山口県立下関北高等学校　会議室

３　参加者　　１９名
学校運営協議会委員　１２名（校長を除く）
学校関係者　７名（校長、教頭、事務長、教諭４名）

４　内　容

（１）校長あいさつ

〇本校は、コロナウイルス感染症対策のため、長らく休校をしており、５月２５日から学校を再開することができた。現在も対策を講じながら、学校を運営している。

〇コミュニティ・スクール（CS）も三年目となり、これまでの６回の学校運営協議会で地域と連携・協働する教育活動や校種間連携について、協議してきた。

〇下関北高校は「めざす学校像」や「育てたい生徒像」が明確に示されており、それを目指して学校運営をしてきた。下関北部地域唯一の高校を存続させていくためには、高校として何をすべきか、高校にとっても小中学校にとってもwin-winの関係になる取組は何かなど、校種間連携の取組についても協議を深めたい。

（２）山口県立下関北高等学校学校運営協議会について

・学校運営協議会の構成や役割等について、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」「学校運営協議会の設置等に関する規則、学校運営協議会の運営に関する要綱（山口県教育委員会)」「山口県立豊北・下関北高等学校学校運営協議会の運営に関する会則」をもとに事務局から説明。

・「豊北・下関北高校」から「下関北高校」に完全移行したことに伴う会則の改正について事務局から説明し、委員の承認を得る。

（３）委員自己紹介

・今年度最初の協議会であり、新たに委員になられた方もおられるので、自己紹介をしていただき、その中で、これまでの本校との関わりや、学校に期待すること、それぞれの立場から見た学校の課題等について意見をいただいた。

（４）会長・副会長選出

・立候補者及び推薦がなかったため、事務局から会長に白岡勝典氏、副会長にコミュニティ・スクール教育アドバイザーの江原健二氏を推薦し、全会一致で選任。

（５）報告

・「学校運営方針、学校評価書」「地域と連携・協働した活動　令和元年度の記録」「学校生活の様子（令和２年３月～６月)」「地域と連携し・協働した取組　実施計画書（令和２年度)」について、校長が資料及びパワーポイントにより説明。

・令和２年度実施計画を賛成多数により協議会として承認。

（６）協議

・学校の説明を受けて、学校運営協議会委員が協議。

【委員からの主な意見】

＜人づくり・地域づくりの取組について＞

〇地域の祭りを企画から生徒が参加し、運営を手伝うことで地域により愛着がわくのではないか。

〇これまでの小学校、中学校の地域交流の一環として、地域のことや地域の方々をよく知っている地域コーディネーターが常駐していることが良い方向に働いた。

〇中学校では、コミュニティルームやコミュスクルームとして、地域の方が気軽に行ける部屋がある。このような部屋にCS活動推進員も時間を決めて、行くことができる。しかし、限られた人との関りにはなってしまうことが課題として残る。

〇まず、学校と交流を持ってもらうには、昼休みにフラワーアレンジメントをする方々に入ってもらうなど、団体で入ってもらうことから始めるとよい。生徒にとっても普通に一般の人がいても当たり前という雰囲気ができる。学校を閉じて守るよりも学校を開いて中に入ってもらって、学校を守ってもらうという状態にしたい。

〇小学校、中学校ではふるさと学習をしているので、高校では学習だけにとどめず、地域の活性化を見越した活動ができないか。高校生という発達段階ならば外に向かって地域の良さが発信できる段階にあるのではないだろうか。

＜小中高の連携について＞

〇高校生の学習指導として、夏休み中の補充学習をコロナウイルス感染症収束後、していただけるとありがたい。

〇農作物の収穫を小学校ではよくするが、それを付加価値をつけて売るなどネットを使い、利益を意識した活動ができるのではないか。小学生が育て、高校生が加工したと宣伝し、利益を意識した活動をすることで、生徒に積極性が生まれるのではないか。

〇学校運営協議会で決まったことを生徒に下ろすのではなく、生徒がしたいと思うことを形にするのが学校運営協議会ではないかと日頃から考えているので、生徒の意見を聞きたい。

〇生徒たちはどう考えているのか、地域の方はどう考えているのか、熟議などを通してお互いに思いを知る機会ができればよい。また、学校を離れると学校のことがよくわからなくなるので、互いに情報発信をしながら、互いのことを知られるようにしたい。

（７）閉会

・次回の学校運営協議会の連絡